

歴史は人々と共に

勝手連が沖縄・宮古島で産声を上げて44年。その活動は、光永勇という人物の歴史そのものです。沖縄自然王国を作ってアースデイに火を灯し、横路北海道知事や石原都知事の誕生にも寄与していく。熱い血の通った光永会長の足跡を辿る事で、輝かしい勝手連の歴史を紐解きます。



勝手連の原点「宮古大学」ののぼりを掲げる18歳の光永勇会長

国立・県立・私立に対抗して「自立のために大いに学ぶ」という想いで設立した宮古大学は私塾のようなもので、生徒は仲間15~16人ほどだったが、講師には民俗学者の谷川健一先生や新崎盛暉先生も参加してくれた。この写真は、写真家の東松照明先生が、たまたま宮古島に来た時に撮ってくれた1枚だ。東松先生とはその後も交友が続き、不思議な偶然の出会いが光永会長の運命を紡いでいく。



出会いからうん十年。戦後の日本を代表する写真家、東松照明先生にインタビュー

1952年5月17日、光永勇会長は沖縄・宮古島で生を受け、小・中学生時代に昭和天皇から本土と沖縄の子供たちの交流の証「豆記者」に選ばれます。沖縄返還が見えてきた高校生時代には、ヘルメットをかぶって街頭闘争に奔走し、高校生一万人行動を展開するなど反戦活動家として使命感たっぷりに過ごします。しかし祖国復帰運動で逮捕され、高校を除籍となるとイデオロギーや宗教、それをベースとしたセクトの偏狭さに気付けて距離を置くようになります。

18歳になると「宮古大学」を設立。わずか四畳半一間の教室に、多くの旅行者が知識を持って訪ねてくれました。誰からの資金援助もなく、すべて手づくりで、イデオロギーやセクトに頼らない宮古大学は、現在の勝手連活動の原点となりました。

1982年、藤本敏夫氏や田村正敏氏と共に自然王国連邦「沖縄自然王国」を立ち上げて初代の国王に就任。彼らとの出会いが「勝手連」という言葉や、日本アースデイ誕生のきっかけとなっています。

歴史は人々と共に。

全国勝手連連合会のあゆみ



使命感いっぱい青春時代

光永勇会長は1952年(昭和27年)5月17日、沖縄の宮古島で生を受けました。宮古島は沖縄本島の南西約290km、周囲117kmのかなり大きな島で、人口はおよそ5万5千人。全体が平坦で、山と叫べる山や大きな河川・湖はなく、四季を通して温暖な住みやすい島です。今では直行便なら、東京から3時間ほどで到着します。

昭和30年代頃は、アメリカの占領地でテレビもなく電話もめったに通じないド田舎でした。幸い光永会長の父親は製糖工場に勤務する技術者で、比較的裕福な家庭だったので、光永少年は沖縄本島にも、復帰前の本土にも、何度か遊びに連れて行っ

てもらいました。

小学生から中学生時代にかけて、本土と沖縄の子供たちの交流を目的として昭和天皇から毎年選ばれる、沖縄の「豆記者」として、皇太子殿下(現在の平成天皇)にお目にかかりました。豆記者に選ばれるという事は、当時の沖縄の小・中学生にとっては大変な誇りであり、今でも貴重な思い出となっています。

高校時代はちょうど、1970年安保や沖縄返還が具体的に近づく頃。ヘルメットをかぶり、いっぽしの反戦活動家を気取って街頭闘争に奔走します。まさに使命感、いっぽしの青春時代でした。しかし祖国復帰運動で逮捕され、高校を除籍になって初めてイデオロギーの持つ偏狭さに気付き、以来イデオロギーや宗教、それをベースとしたセクトから距離を置くようになったのです。

勝手連の原点は宮古大学

大学進学を断つた光永少年は「自立のために大いに学ぶ」という想いで「宮古大学」を設立します。わずかに四畳半一間の教室で、生徒は仲間15人、16人ほど。しかし、多くの旅行者が島外から訪れては知識をもたらし、写真家の東松照明さんや民俗学の谷川健一さん、新崎



地球サイズの行動力と創造力!

いっぽしの「反戦活動家」を気取ってマイクを握る18歳の光永会長。青年に待ち受ける未来とは?

History

■1952年5月17日…沖縄・宮古島で光永勇が誕生する。

■小・中学生時代:昭和天皇から選ばれる沖縄「豆記者」として、当時皇太子殿下(現在の平成天皇)にお目にかかる。

■高校生時代…1970年、安保や沖縄返還の日程が具体的に近づく頃、反戦活動家として高校生二万人行動を展開。祖国復帰運動で逮捕され、高校を除籍となった事。期に、イデオロギーや宗教、それをベースとしたセクトの偏狭さに気付き、距離を置くようになった。

■高校除籍後…「自立のために大いに学ぶ」という想いで「宮古大学」を設立する。生徒は仲間15人、16人ほどであったが、講師には写真家の東松照明氏や民俗学の谷川健一氏、新崎盛暉氏などが参加。一年ほどで幕を閉じたがこの活動が現在の勝手連の原点となっている。

■青年時代…1972年「沖縄文化社」という新聞社を設立し、日本一周の取材旅行に出かける。この経験を活かして「宮古オートセンター」やカラオケのリース業を営み、成功を収めるが、後に13億円もの負債を抱える事となる。

■邱永漢氏の「人もお金も寂しがりやなんだ。だから人の集まるところに金も集まる」という言葉に感銘を受ける。



2007年6月2日

1990年代

勝手に保証します！

当選保証書 稲嶺恵殿
わたしは、全国勝手連連合会は、天・地・人の
わき上がる気運を受けて、あなたが沖縄県
知事に当選することを保証します。

稲嶺恵一氏に伝家の宝刀「当選保証書」を授与！

はためく色とりどりの旗、旗…。
市民を味方に付けて、横路孝弘氏の三選
を呼びかけた「でてこい勝手連」

1998年の沖縄県知事選挙で、稲嶺恵一候補を応援する事を決断し、稲嶺県政が実現する。当時現職の大田昌秀知事は多くの県民から支持を得ており、三選はほぼ間違いないと言われていた。8年前には太田勝手連として応援したが「大田知事では長引く不況を克服できない」と判断したため。勝手連は未来永劫太田氏への忠誠を誓うものではない事を証明する結果となった。
投票日2日前の11月13日、那覇市の国際通りで2000人を越える観客の拍手と報道陣のフラッシュの中、稲嶺候補に「当選保証書」を渡した。渡すタイミングは報道される事を狙って告示直後か投票日直前に絞る。もちろん渡したら絶対に当選するわけではないが、20数回のうち全員当選させた実績がある。勝てる自信がある場合や、逆転を狙う時にしか出さない全国勝手連連合会の宝刀なのだ。

日本初の沖縄アースデイが改革派に勝利を呼ぶ
環境を変える！カエル運動の一環として光永会長は、アースデイに関する記事を目します。「地球の日か、これはすごいな。何で日本でもやらないのかな？…そうだ、オレがやればいいんだ」と1990年の4月22日、沖縄で、日本では初となる「アースデイ」のイベントを開催。日本各地200ヶ所、1000を越すグループが他にもイベントを行ないましたが、沖縄は特に大きな盛り上がりを見せ、参加した加藤登紀子さんも非常に感激したといいます。
その後、アースデイは全世界で5億人の規模の運動となりました。
この日のアースデイと沖縄市長選挙の投票日が偶然重なり、12年間自民党支配が続いていましたが、改革系の候補者が勝利しました。

全国勝手連連合会が発足
1991年の北海道知事選挙では舛添要一氏が突然、北海道に住民票を移し、立候補の構えを見せます。そこで前年の沖縄知事選挙で一気に名を上げた沖縄の勝手連に、三期目を目指す横路知事からSOSが入りました。光永会長は北海道で「でこい勝手連」を設立。舛添氏は恐れをなしたのか、結局「でこい勝手連」イベントの翌日、正式に不出馬を表明し、横路知事の三選となりました。
この時、全国勝手連連合会を発足。光永勇が会長に就任しました。
この頃から勝手連運動は一気に加速していきます。1993年には宮城県で浅野史郎知事を、1995年には横山ノック大阪府知事と青島幸男東京都知事を、次々と誕生させていくのです。その間も地方の市町村長や議会議員、国会議員も当選させ、何と勝手連が応援した選挙では161回連続当選という輝かしい記録を樹立したのです。しかし当選させても、ダメと判断すれば太田沖繩県知事や横山ノック大阪府知事の様に、二期目はNOを！つきつける事が出来るのも勝手連です。

- 1990年4月22日…加藤登紀子氏や喜納昌吉氏と共に日本初のイベント「アースデイ」第一回大会を沖縄で開催。これをきっかけに、ちょうど同日投票日だった沖縄市長選挙で、改革系の候補者が奇跡的に勝利する。
- 1990年11月…沖縄で「うちなあ勝手連」を立ち上げ、大田昌秀氏を応援する。
- 1991年…舛添要一氏が北海道知事選に立候補する構えを見せ、「でこい勝手連」を立ち上げる。横路孝弘氏を全力バックアップし、舛添氏は「でこい勝手連」イベントの翌日、正式に不出馬を表明した。
- 1991年…田村正敏氏と互いのノウハウをまとめるため、全国勝手連連合会を発足。田村氏が勝手連運動から離れたため、光永勇が会長に就任して現在に至っている。
- 1993年…宮城県で浅野史郎氏を応援し、当選に貢献。
- 1995年…勝手連の応援を受け、横山ノック大阪府知事（二期目はNOをつきつけた勝手連）、青島幸男東京都知事が誕生する。
- 1998年11月13日…沖縄県知事選挙で「大田昌秀知事では長引く不況を克服できない」と判断し、稲嶺恵一候補を応援。投票2日前、国際通りで稲嶺候補に「当選保証書」を授与した。

光永会長の影響を受けた「横路勝手連」で初めて勝手連の名前が登場！
1982年には、日本放浪の旅で知り合った学生運動の活動家たちと一緒に、沖縄に「自然王国」を作り、初代国王に就任しました。藤本敏夫氏や日大全共闘出身で北海道で市民活動を模索していた田村正敏氏らとの交流から、後に「勝手連」という言葉が生まれます。
その後、田村氏は横路知事とも袂を分かち、自ら札幌市長選挙や衆議院選挙に立候補して落選。勝手連哲学を理解しないまま、1998年に不完全燃焼でこの世を去ってしまいました。光永会長は「勝手連の活動を最初に実践に移した人物だった。しかし本当の意味での勝手連哲学を深めるチャンスがなかった悲劇の人でもあった」と胸の内を明かしています。

宮古を訪れ、後援会組織を作らない光永会長の選挙活動を見て刺激を受けた田村氏は1983年の北海道知事選挙で「横路孝弘と勝手に連帯する若者連合」という組織を立ち上げ、運動を広げていきました。後に田村氏が「誰もに参加し、楽しくやれば良い」と語っていたが、これは正に勝手連の思想です。もし、この時横路知事が誕生しなければ「勝手連」という言葉も何ら魅力を持たず、歴史の波に飲み込まれて消滅していたかもしれませぬ。
ただ、この時の田村勝手連は「連帯」連合」といった言葉からも推察される通り、どこか学生運動の名残りを引きずっていたようで、田村氏自身もセクツ的な考えから、完全に脱却できなかったようです。

1982年…藤本敏夫氏や、日大全共闘出身で北海道で市民活動を模索していた田村正敏氏と共に自然王国連邦「沖縄自然王国」を立ち上げ、光永会長が初代の国王となる。彼らとの交流がきっかけとなり、後に「勝手連」という言葉が誕生する。
1983年…田村氏が、北海道知事選で「横路孝弘と勝手に連帯する若者連合」という組織を立ち上げ、初めて「勝手連」という言葉が社会に広まった。
1982年…暇を見ては参加してこられた。すべてが手づくりで誰からの資金援助もなく、先生たちの話を聞いたり、仲間で議論したりの日。この活動こそが、イデオロギーやセクトに頼らない市民活動の走り、現在の勝手連の原点となったのです。残念ながら、1年ほどで終わってしまいました。活動のノウハウは、未だ勝手連の運営に活かされています。光永会長は日本一周の旅に出た後、島に戻ってビジネスの世界で大成功を収めます。しかしすべてが順風満帆と思われた矢先、沖縄で最初の大規模小売店舗法の影響で13億円もの借金を背負ってしまうのです。浮き沈みを経験しながらも、当時から選挙運動には積極的に関わって来ました。友人が立候補すると選挙参謀の真似事をしたり、時には光永会長自身、先頭に立って応援演説も行いました。離島や田舎の町では、政治と生活が直接に結びついているので、選挙の度に、必然的に巻き込まれるのです。小さな町の議会選挙などの経験が、後の勝手連活動に役立っている事は言うまでもありません。





野村沙知代氏と共に、乾杯の音頭をとる光永会長

全国勝手連連立会結成32周年記念 選挙・政治雑誌「選挙会議」発刊記念 光永勇会長誕生パーティー

2000年代



古くから交流の深い山崎拓氏。2012年、政界からの引退を表明



元警察官の平沢勝栄氏は辛口スピーチで祝辞



国土庁長官、国家公安委員会委員長などを歴任した石井一氏も駆けつけた



勝手にますますの期待を寄せるデヴィ氏が激励



国際女優の島田陽子氏



左から山本和明氏、橋本明氏、重信メイ氏、光永会長

全国勝手連連立会 32周年と選挙会議の発刊記念 つながればパワー勝手連



左から光永勇会長、下地幹郎代議士、名城政次郎沖縄尚学校長、上野玄津副会長（いずれも当時）スーダンへ沖縄から飢餓対策で琉球芋を援助した事から



スリランカ国土大臣が国土行政を学びに勝手連事務所を訪問

- 2000年12月…自由民主党本部にて小沢一郎氏と鼎談。
- 2000年12月…栃木県知事選挙で勝手連の支援した福田昭夫氏が当選。
- 2000年10月…「カモシカやっしー」のキャラクターを作った選挙を身近に。長野の田中康夫知事を誕生させる。
- 2000年2月…京都市長選挙「ますます勝手連」で梶本頼兼氏を見事当選に導く。
- 2000年…祭りや踊りを通してアジアの人々との国際交流を図る、第1回ふくこいアジア祭りを大々的に開催。



人の集まる場所に
気も集まる！

■ 1999年…勝手連立ち上げの手引き「勝手連戦略大綱」「勝手連指図書」を発行する。



全国勝手連連立会のおゆみ 1990年代

結果は、事前の予想を大きく覆し、稲嶺恵一候補が当選を果たしました。この事で、勝手連はその時々に応援団であり、さらに言えば、当選しても市民に益のない知事や議員なら、次の選挙では対立候補を応援するし、落選運動も辞さない、未来永劫、忠誠を誓うわけではない、という姿勢が世間に広く知れ渡りました。

翌1999年に行われた愛媛県知事選挙では、投票日が年明け早々に、自民、公明、保守、市民の推薦を取り付けて圧倒的に優勢と見られていた現職候補に対し、無所属で立候補した中田宏候補が勝手連など市民団体中心の選挙戦を繰り広げて大逆転勝利。

次々と実績を積み重ね、勝手連の名は、ますますマスコミを騒がせるようになっていきました。



日本初となる「アースデイ」を沖縄で開催

さらに勝手連の恐ろしさを世間に印象づけたのは、1998年の沖縄県知事選挙でした。勝手連は、8年前に応援した大田昌秀氏ではなく、保守系から出馬した稲嶺恵一候補を応援する事を決断します。太田県政を觀察して「反戦平和、基地撤廃闘争の政策は良いが、それだけでは長引く不況を克服できない。さらに公費で不要とも思えるアメリカ出張を重ね、自らが住む知事公舎を『老朽化した』という理由で7億円もかけて新築する」という金満体質への変質ぶりに嫌気がさしてきたのです。

1月3日という、有権者を無視した選挙管理委員会の暴挙に、光永会長の反骨心がむくむくと湧き起ります。現職候補は組織選挙に強く、低い投票率でさらに当選を確実にしようという思惑を感じ、もう黙ってられない、と地方の有志たちと「正月投票だま」と連・勝手連を設立。徹底して投票を呼びかけた結果、現職候補は落選。投票率も、前回に比べて10%近く上回りました。

全国で立ち上がる勝手連、 石原東京都知事の誕生で ますます飛躍！

1999年は勝手連連立会にとつて大きな飛躍の年となりました。地域勝手連が日本各地で運動を開始し、勝手連新聞も創刊。勝手連立ち上げの手引きとして「勝手連戦略大綱」や「勝手連指図書」を発行し、石原慎太郎東京都知事の誕生にも大きく貢献したのです。

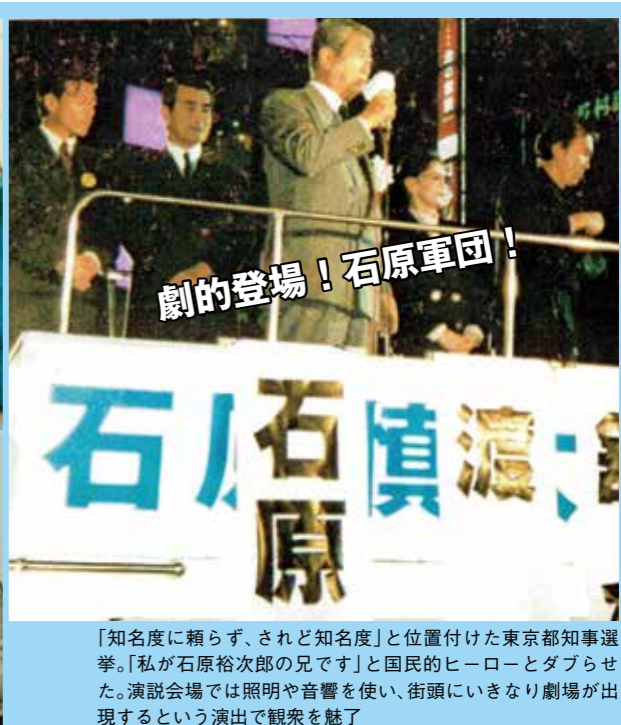
翌2000年には長野県の田中康夫知事、栃木県の福田昭夫知事が、さらに2001年には堂本暁子千葉県知事が、勝手連運動をバックグラウンドに見事当選を果たします。

2002年2月の横浜市長選挙では、自民、公明、保守、市民の推薦を取り付けて圧倒的に優勢と見られていた現職候補に対し、無所属で立候補した中田宏候補が勝手連など市民団体中心の選挙戦を繰り広げて大逆転勝利。



写真上)選挙後、これからの日本、政治改革について石原都知事と鼎談する光永会長

下)1993年に発足した「首相公選制を考える国会議員の会」会長・自民党幹事長(当時)の山崎拓氏と。会をきっかけに、首相公選制に対する新しい議論が始まった。その後は民主党などからも賛同者が集まっている



劇的登場！石原軍団！

「知名度に頼らず、されど知名度」と位置付けた東京都知事選挙。「私が石原裕次郎の兄です」と国民的英雄とダブらせた。演説会場では照明や音響を使い、街頭にいきなり劇場が出現するという演出で観衆を魅了

History

- 1999年…年明け早々1月3日に投票日という愛媛県知事選挙で「正月投票だま」と連・勝手連」を設立し、徹底して投票を呼びかけた。結果は現職が落選。投票率も前回に比べて10%近くも上回り、日経新聞にも掲載された。
- 1999年…大阪府知事候補として関西勝手連の上野代表を4月11日の東京都知事選挙では、鳩山邦夫氏、舛添要一氏、明石康氏、柿澤弘治氏ら、強豪ひしめく中で石原慎太郎東京都知事誕生の一翼を担う。照明や音響の中から石原軍団が登場するという演出で、演説会場を劇場に昇華させ「知名度に頼らず、されど知名度」の戦略を取った国民的英雄と重ね合わせた「私が石原裕次郎の兄です」というキャッチコピーは今でも有名だ。
- 2007年4月の都知事選では、各候補の「勝手連」が続々決起する中、石原氏の三選に貢献。無党派時代の幕開けとなった。
- (左写真)石原都知事をエスコートする光永勇会長



勝手連36周年記念大会では、3625のエネルギーが東京タワーを取り囲んだ

日本ありがとう!
戦後の象徴・東京タワーでの
シンポジウムに
3625名が大・大・集結!



最先端技術の平和利用に向けて、
京谷好泰先生とロシアの
宇宙飛行士を囲む



「人を動かす!」技術
出版記念講演会



石原都政再起動! 大差で決めた
石原慎太郎氏の三選に貢献



新春全国首長・議員研修交流大会

全国自治体は自らの構造改革に起死回生の契機をつかもう

アメリカでは小泉純一郎元総理も参加した。全国自治体会議のドイツメンバー。ここから、自治体の問題を政治家と共に論議できる画期的な機会が生まれた



2005年の衆院選で
亀井静香氏を応援!

日本青年社「新春の集い」で挨拶する光永会長

全国勝手連連合会のあゆみ

2000年代



いつの時代も
義理人情が
歴史を動かす!

自民党との連立を解消したばかりの小沢一郎氏は「金丸信さんに総裁選出馬を打診されたが、人情が動いて辞退した」と語った。構造改革を叫ぶ「壊し屋」の発言としては意外であったが、坂本龍馬も同様、人を動かすのは結局「義理人情」なのだ

「バラバラオールスターズ」が歌とダンスで相川宗一氏を応援

「カモンカ・ヤッシー」と共に長野県知事選挙を戦った盟友・田中康夫氏と「選挙に行こう!」

横浜市長選挙で中田宏氏を猛烈アピール!



♪選挙に行こう
棄権は危険♪

訪朝し、元よ号北朝鮮メンバーを慰問。北朝鮮の現状を聞く



「すずかん」こと鈴木寛氏と父上が当選祝いの雄叫びを上げる

京都市長選で「ますます勝手連」が樹本頼兼氏を勝利へ!



manifestoの見本市的な初のイベント「manifesto」の取材を受ける光永会長

タイの麻薬撲滅運動では、ケシの栽培現場まで趣いた

勝手連放送局の開局、そして国際勝手連へ

2001年の秋からは、インターネットを活用して勝手連放送局を開局。ホームページも開設し、積極的な情報発信をスタートします。

2003年以降は国際選挙監視勝手連、国際紛争監視勝手連など、海外での積極的な勝手連活動にも尽力していきます。

その後は日米交流勝手連、環境保護勝手連、マルチメディア勝手連、若者の会勝手連、女性の会勝手連など、勝手連活動の場を広げ、次々とイベントや事業を立ち上げて、新しい日本創造の運動を展開していきます。

History

2001年・千葉県知事選挙で堂本暁子氏を応援。元TBSディレクターという経歴を活かした「街頭インタビュー」という新しい作戦で、見事当選させる。

2001年5月・さいたま市長選挙で相川宗一候補は「バラバラオールスターズ」の選挙に行こう!棄権は危険!の音楽に乗ってダンスを披露。二位に二万票余りの差を付けて、大勝利を収めた。

2001年7月・参議院議員選挙で鈴木寛氏(通称「すずかん」)に学ランを着せ、お祭りパフォーマンスで盛り上げた。鈴木氏は三位で当選を果たす。

2001年秋・インターネットを活用した勝手連放送局の開局と共に、ホームページを開設。新しいメディアの形を作る。

2002年2月・横浜市長選挙で、無所属で立候補した中田宏候補と共に戦う。圧倒的に優勢だった現職候補に対し、市民団体を中心とした選挙戦を繰り広げて逆転勝利。

2003年・選挙会議VOL.1「当確」報道の舞台裏」発行。

2003年9月9日・朝鮮民主主義人民共和国を訪問。

2003年・全国勝手連連合会結成32周年記念パーティーを盛大に開催。

2004年・12月26日のスマトラ島沖地震を受けて「スリランカ勝手連」を立ち上げ復興を支援。

2005年4月・日本のために静かに眠る、ミャンマーの日本人戦没者慰霊碑を建立。

2006年6月14日・両国国技館で開催された勝手連35周年記念式典に全国から7000人が結集。歌って踊って、市民の華が咲いた。

2006年8月・地球市民による先端技術の平和利用に向けて、愛と夢と希望の宇宙進出を目指し、ロシア連邦宇宙庁を視察。

2006年8月・インターネット選挙運動解禁に向け、全国の自治体に請願陳情運動を展開する。

2006年8月・多彩な講師陣を迎え、勝つ極意を伝授する勝手連大学、勝手連流サブライズがスタート。

2006年8月・市民団体の交流で支え合う、相互扶助(ゆい)の精神の、日本市民協議会が発足する。

2007年1月・講演会で「勝手連」の極意を伝授。

2007年1月・35年及以上選挙運動で(国選)266勝(地方)首長選)1246勝という記録を樹立。常勝・勝手連として、さらに注目を浴びる。



馬頭琴とホーミンの演奏



琉球大学の米盛裕二教授



義援金を渡す光永会長



モンゴルの子供たちが歌と舞を披露してくれた

万人のモアイ沖縄大会
つながればパワー!



モンゴルの子供たちとの交流パーティー



メイクですっかり
分からないが、
左は海江田万里氏

平成世直し幕末劇

今の日本を坂本龍馬や吉田松陰ら、幕末の志士が見たら、
一体何と言うだろう!? どんな「祭り事」を行うだろう!?
勝手連幕末劇は、平成を代表する政財界の強者たちが、
自ら筋を書き、言葉を編み出し、普段聞けないリアルな声で
演じた事で、大きな話題を呼ぶ



「敬天愛人! 隆盛の如く」記者会見には、蒼々たるメンバーが顔を揃えた



「安全保障と平和」 シンポジウム

軍事研究家・矢野義昭氏と一橋総合研究所COO・鈴木壯治氏をお
迎えし「安全保障と平和」シンポジウムを開催。日本の「核武装」
というタブーに切り込んだ

全国勝手連連合会のあゆみ 2000年代



世界に通じる平成の志士の育成を目指し、
念願の政治塾と勝手連大学を開校!



夕ライブラマ法王と接見し
朝青龍明德氏との面会実現を果たす

全国勝手連連合会主催 新年会実行委員会主催「安全保障と平和」



両国国技館で勝手連35周年式典



7000人を前に講演した
堺屋太一氏と

元経済企画庁長官・内閣特別顧問で経済評論家の堺屋太一氏、元皇宮
警察本部長・初代内閣広報官の宮脇嘉介氏による講演と、豪華パネリ
ストによる8時間におよぶ華やかな式典となった。評論家・菊池久氏、
国際ジャーナリスト・中丸薫氏、戸塚ヨットスクール社長・戸塚宏氏、
国会タイムス社社主・五味武氏、一水会代表・木村三浩氏、元赤軍派最
高責任者・塩見孝也氏など、左右両翼がズラリ!一同に会した

【日本市民会議シンポジウム】市民の意見
を直接政策に反映できる、市民が主役の
社会づくりを目指した互助共同体の実現
に向けて!
●出席者:慶應義塾大学教授・浅野史郎氏、
公益法人理事長・太田達男氏、構想日本代
表・加藤秀樹氏、前岐阜県知事・梶原拓氏、
国際ジャーナリスト会議代表・角間隆氏の
代理・清水洋一郎氏

災害支援勝手連



上) スマトラ島沖地震の復興
のために立ち上げたスリラン
カ勝手連。2008年には感謝状
が贈られる
下) 新潟の震災復興勝手連で
は、上越ケーブルテレビの社
長様に義捐金を渡す



国際交流人権擁護を考える集い



五味武先生と「日本の侍魂」が
イラク訪問前にゲスト出演



「リニアモーターカーの父」
京谷好泰先生と、金武の中学校の講演に



元日本兵を訪ねフィリピン奥地
へ、彼らはきっと日本人である事
を忘れていない



国府正男氏と共に、ア
ジアに眠る日本人戦没
者の慰霊碑に不戦の誓
いを立てる

History

- 2007年4月...無党派時代の幕開け!石原慎太郎氏が
大差で二選を果たす。
- 2007年6月...来たりて
学べ、平成の志士!国際社会
で世界に通じる若手政治家の
育成に向けて動き出す。
- 2007年7月...勝手連36
周年記念大会で東京タワーに
大結集!各界から3625名
が出席する。
- 2007年7月...新技術を
駆使したハイテク勝手連イン
ターネットを解禁宣言。
- 2007年8月...一票一揆で
選挙革命を!組織票を減らせ
ば民の力で選挙革命は実現で
きる!無党派勝手連の千万
票時代に向け、北海道から沖
縄まで、二万件の公約の登録を
達成する。
- 2007年9月...韓国、モン
ゴル、北朝鮮、フィリピン、ミャン
マー、スリランカ、イラク、マラッ
カ海峽を訪問する。
- 2007年...「孝」の精神を
見直そう!「親孝行勝手連」
始動。
- 2007年...「沖縄離島振
興」「沖縄再生への切り札」「沖
縄金融センター」が始まる。
- 2008年1月...「地球環
境勝手連」が竹資源を提供。
- 2008年2月...光永会長
が「沖縄と皇室と豆記者」と
題した講演で、記者の精神を
語る。また勝手連千葉政治塾
の開校が決定する。
- 2008年3月...新春の集
いシンポジウムで「外交、教育、
文化、安全保障」を議論する。
- 2008年4月22日...全国
各地でアースデイ開催。
- 2008年5月...アースデイ
2008沖縄大会開催。名護
から西表島まで2ヶ月間、漂
着ゴミの現状を視察し、漂着
ゴミ対策自治体会議設立を
各市町村に提案する。
- 2008年6月...全日本身
体障害者を守る会、30周年
記念特別企画チャリティー支
援の会を開催。
- 2008年8月...「国際交
流勝手連」が沖縄金武町長と
韓国広州市、姉妹都市提携へ。
- 2008年8月...「沖縄北
部振興策研究会」在福岡モ
ンゴル国名誉領事館・沖縄事
務所」を開設。財団法人那覇
高等美容学校(光永会長・理
事長)が沖縄県美容技術選手



上写真は森喜朗元総理
大臣(右)をエスコート
する光永勇会長



人民大会堂の歓迎パーティーで記念撮影

百歳長寿研究所

<http://rina-medical.com>

“健康力”をアップすればもっと遊べる、もっと仕事ができる!!

RINAメディカルクラブは 会員様の楽々人生を応援します。



あなたの命は、あなた一人のものですか?



医療法人八十九会グループ
<http://www.rina-mr.jp>

■新橋八十九会クリニック
東京都港区新橋4-9-1新橋プラザビル2F

■東京手の外科・スポーツ医学研究所
東京都八王子市高月町1133-1

■拜島整形外科
東京都昭島市松原町4-11-11サクラメディカルビル3F

■高月整形外科病院
東京都八王子市高月町360番地

会員制RINA・人間ドックROOM
東京都港区新橋4-9-1新橋プラザビル2F

■八九十会高尾病院
東京都八王子市館町559-1

■明神町クリニック
東京都八王子市明神町3-8-13レトワル明神町1F

RINA Medical Center RINAメディカル&リゾート株式会社

RINAメディカルサービスセンター 東京都港区東新橋2-4-8 TEL.03-6897-9909 ☎0800-333-9909

■沖縄・クリニックオープン準備室・沖縄県国頭郡金武町屋嘉1739-2ゴールデンサンビーチホテル



アジア外交の健全化を目指して。



日中関係の改善に向けて、小沢一郎・民主党幹事長(当時)と民主党議員、一般参加者が訪中



中国守礼会



朝鮮の義勇兵を讃えた北朝鮮の国宝「北関大捷碑」の返還を求めて靖国神社の宮司と交渉。光永会長は日本側実行委員長として尽力した



韓国大統領官邸の青瓦台で

History

- 県大会ワインディングコンテストで優勝する。
- 2008年11月…モンゴル国駐日大使レンチェンドー・ジグジット閣下が訪沖。光永会長はモンゴル国名誉領事、在福岡モンゴル国名誉領事館最高顧問に就任する。
- 2009年1月…大相撲沖縄場所を終え、朝青龍関と白鳳関がモンゴル国名誉領事館を表彰訪問。
- 日本・モンゴル外交関係樹立37周年記念レセプションを開催。
- 2009年3月…千葉勝手連が大勝利!! 首都圏知事連合が確立する。
- 2009年7月26日…二万人のモアイ沖縄大会つながらば「パワー」モンゴルの子供たちを迎えて交流パーティー!
- 2009年7月…作家・大下英治先生、発明家・山下浩一博士、戦略家・鈴木治先生を迎え講演会を開催。
- 沖縄県自然保護CO2削減事業共同組合の設立。
- 2009年9月…選挙会議VOL2選挙予測が的中! 世直しキャラバン隊が北海道から沖縄まで、全国各地で大歓迎を受ける。
- 2009年12月1日…民主党代表団に同行し、訪中。
- 2013年…砂防会館にて「日本の方途」をテーマにした1000人規模のイベントを開催
- 2014年…都知事選挙候補者を集めた討論会を憲政会館にて開催
- 2015年…国土交通省後援イベント「建築職人甲子園」を応援

「日本の頭脳」・「日本市民会議」・「全国勝手連連合会・総本部」主なアドバイザー・賛同者一覧

瀬島 龍三 (日本市民会議 最高顧問)	大江 匡 (建築家)	小長 啓一 (AOC ホールディング相談役)	高増 和明 (SOFT21 一級建築士事務所所長)	服部 健三 (公務研修協議会会長)	水野 正人 (ミズノ会長)
中曽根康弘 (元総理・日本市民会議 顧問)	大嶋 精次 (上越ケーブルビジョン (株) 代表取締役)	越智 哲朗 (全国勝手連連合会・総本部理事)	滝 真寿 (日本観光連盟会長)	服部 幸應 (原部学園理事長)	水野 洋 (日本再建のため行革を推進する700人委員会代表世話人・元行革会議委員・事務局長)
高澤 喜一 (元総理・日本市民会議 顧問)	大嶋 電蔵 (M&R グループ総経)	小林 長夫 (議会新聞社編集長&ナチュラル会長)	田口義喜男 (西濃運輸会長)	高山 重篤 (社協の森を築く会代表)	三田 佳子 (俳優)
村山 富市 (元総理・日本市民会議 顧問)	太田 勇江 (大阪府知事)	小林 愛子 (暁と愛の会代表)	田口 大助 (株) エヌ・ケー・テクノサービス代表)	花井 幸子 (ファッションデザイナー)	みのもた (司会者)
鈴木 俊一 (元東京都知事・日本市民会議 顧問)	太田 文一 (元横浜大学学長)	小林 一郎 (KRG ホーム代表取締役・議会新聞社顧問)	奥田 文彦 (リンカーンクラブ代表)	羽仁 進 (映画監督)	宮内 龍彦 (オリックス (株) 会長)
相沢 正実 (ほうらい会長)	太田 達男 (公益法人協会理事長)	小林 成 (成田市長)	竹村 健一 (評論家)	浜 美枝 (俳優村づくりアドバイザー)	宮崎みどり (ジャーナリスト)
相磯 秀夫 (東京工科大学学長)	太田 保世 (太田総合病院理事長)	小町 文仁 (花と緑の農芸財団常務理事)	竹村 真一 (プロジェクト・タオス)	浜田麻紀子 (MD 代表取締役)	宮沢 秀夫 (高輪勝手連代表)
青木 透 (市民活動フェア2000)	太田 緑子 (太田総合病院名誉理事長)	小松 忠義 (東洋理学創始者)	竹内 順一 (東京大学芸術大学美術館教授)	濱田 雅行 ((株) ルーツ代表取締役)	宮田 修 (ジャーナリスト)
青木 修三 (環境経営学会)	大宅 映子 (株) 日本インフォメーションシステム)	五味 武 (国会タイムス会長)	田勢 康弘 (早稲田大学大学院教授)	浜野 安枝 (都市デザイナー)	宮本悠美子 (ユア・ブ・シース社長)
青沼 博 (RNA メディカル&リゾート社長)	大西文一郎 (東海テレビプロダクション社長)	小山 悠子 (サンメデイカルデンタル・クリニック院長)	多田野 敬 (森ビル参事)	浜 美枝 (俳優)	宮脇 嘉介 (宮脇器企事務所代表 (初代内閣広報官))
青山 修二 (ハートウェア21)	大沼 保昭 (東京大学大学院教授)	近藤 章平 (銀座・トマト会長)	館 すずむ (東京大学大学院教授)	英 五郎 (全国 8723 グループ総経)	三好 正也 (J-WAVE 会長)
明石 散人 (作家)	大野 秀敏 (東京大学教授)	近藤 鉄雄 (新時代戦略研究所代表)	立川 敬二 (宇宙航空研究開発機構理事)	林 義昭 (グローバル情報社会研究所顧問)	幸田 学 (日本経営者合理化協会理事長)
阿形 充規 (朱光出版 (株) 代表取締役会長)	大橋 正昭 (名城大学理事長)	今野 由梨 (ダイアルサービス代表)	立川 誠志	林竹 盛子 (日中富士国際学院院長)	夢島由里子 (アート・プロデューサー)
赤塚 健夫 (勲二等・元最高検察庁検事)	大林 高士 (国際ジャーナリスト)	紺野美沙子 (俳優)	立田 清士 (地域経済総合研究所会長)	林原 健 (株) 林原)	岡岡 兼幸 (鳥海ブランド (株) 代表)
赤羽 隆夫 (景気探偵・元経済企画庁次官)	大原 誠 (演出家)	齋藤 薫 (東海キヨスク社長)	立石 真 (日本建築センター理事長)	林原 永吉 (元ペイコム大使)	村上 和彦 (株) 村上劇場プロ代表取締役)
秋山 利輝 (秋山木工社長)	大平 光一	齋藤 衛 (沼津市長)	田中順一郎 (三井不動産会長)	早野 利人 (ニューヨークシア・パートナーズ社長)	村瀬 昭夫 (日本シネセル社長)
秋川 雅史 (テノール歌手)	大前 研一 (評論家)	齋藤 次郎 (東京金融先物取引所社長)	田中 正巳 (イトーヨーカドーグループ労働組合連事務局長)	原 孝夫 (マナダグループ)	村瀬 清志 (メデイカル・プロテオスコープ会長)
秋本 敏文 (日本消防協会理事長)	大谷 哲郎 (グローバルネットワーク代表)	齊藤 文一 (サンナホル社長)	田中 元 (株) 日経ホーム出版社長)	原 丈人 (DEFTAPARTNERS グループ会長)	村瀬 明夫 (インターネットコミュニケーションズ代表取締役)
浅井新一郎 (日本デジタル道路地図協会理事長)	大谷 成行 (社団法人日本環境教育フォーラム理事長)	齋藤 喬 (立命館大学教授)	田中 智子 (エンディングプラン代表取締役)	原 隆之 (丸の内熱供給社長)	村田 恒 (弁護士)
浅井 邦茂 (京都市サテパーク社長)	小川 清 (東海旅客鉄道 (株) 室長)	サイヒロコ (仏国立文化科学技術建築教育 EU センターアテスト)	田中 康夫 (元長野県知事)	原 信太郎 (社団法人原信知会的通信システム基金理事長)	村山 徹 (アークシチュア社長)
浅葉 克己 (浅葉克己デザイン室社長)	小川 精一 (ケイ・アール・シークリング会長)	佐藤ギン子 (日立製作所顧問)	棚橋 康郎 (新日鉄リソースンズ社長)	原田 真二 (ミュージシャン)	目黒 裕樹 (俳優)
朝山あつこ (NPO ケーパソン21)	奥島 孝康 (早稲田大学元総長)	坂井 哲史 (焼肉屋さかい会長)	棚橋 浩吉 (石油資源開発社長)	原田 靖博 (格付投資情報センター社長)	目黒 実 (九州大学特任教授)
麻生 謙 (21世紀臨調福岡県知事)	奥田 誠 (俳優)	酒井ゆきえ (タレント)	谷本 正吉 (石川県知事)	春木 伸哉 (株立神宮司)	毛利 俊夫 (日本総合研究所)
安達 元成 (安達学園中学校学院大学理事長)	尾崎 護 (日本再建のため行革を推進する700人委員会・矢崎科学技術振興記念財団理事長)	堺屋 太一 (作家)	谷野作太郎 (元中国大使)	春成 幸男 (三州倶楽部会長)	落谷 浩介 (日本政策投資銀行地域企画部)
安達 真五 (警察 OB 会長)	尾島 俊雄 (早稲田大学教授)	榎原 節子 (アルペロサクロ代表取締役)	玉置 祥子 (米国財団法人平和と美の地球財団総裁)	佐 襄 (福岡都市開発推進機構)	望月 秀明 (日本ビール発祥館)
瀧美 和彦 (日本統合医療学会理事長東京大学名誉教授)	尾関 友寿 (MF1 ジャパン代表取締役)	榎原 英資 (早稲田大学教授)	タライラマ 14 世	日下 公人 (日本再建のため行革を推進する700人委員会・東京財団前会長)	持永 曉民 (日本宝レシシステム社長)
安陸 常正 (ILA 国際証券)	小田 天寿 (日本歌謡芸術協会理事長)	阪田 誠造 (建築家)	ちばてつとや (文星芸術大学教授)	日比野彦彦 (アーティスト)	木元 教子 (評論家)
阿部 清 (デフアプライベートバンク (株) 社長)	尾之内由紀夫 (元道路新産業機構理事長)	坂本新太郎 (都市緑化技術開発機構理事長)	朝堂院大覚 (チョウエンジ (ビルマ女性連盟日本代表)	平尾 泰男 (放射線医学総合研究所顧問)	本島 修 (自然科学研究機構機械融合研究所所長)
阿部 重夫 (ファクタ出版 (株) 社長)	緒方 龍信 (横橋寺総代)	坂本 龍一 (ミュージシャン)	司 葉子 (日本大正村長 俳優)	平尾 寛 (精工アーキテクチャー編集長)	本田 勝彦 (日本たばこ産業社長)
阿部 守一 (全国市町村職員共済組合連合会)	尾原 香子 (RFI ビジネススクール学長)	佐々木 毅 (21世紀臨調共同代表東京大学前総長・元東京大学長)	丹後 嘉男 (東京大学名誉教授)	平田 為茂 (松下精工社長)	橋本 晴夫 (ミュージシャン)
天本 俊正 (地域計画 21 事務所)	藤澤 良一 (帯津三敬病院院長)	佐藤 謙 (世界平和研究所副会長)	辻 雅子 (横石辻画)	平野 次郎 (学習院女子大学特別専任教授)	橋山 晴久 (ミュージシャン)
荒井 宗雅 (茶道家)	チンゴン (シンガポールライター)	佐藤 和男 (三井不動産顧問)	土取 利行 (パークジョニスト)	守野 卓敏 (アラネット社長)	森 正樹 (森ビル)
荒木とよさ (音楽家)	織作 峰子 (写真家)	佐藤 貴夫 (弁護士)	土屋 利一 (日本画家)	平本 一夫 (三菱総合研究所)	森 浩史 (アークシチュア会長)
荒木 健 (日本総合住生活社長)	海江田万里 (前民主党政党首)	里中満智子 (劇作家)	土坂 正男 (APC 社長 & 関西勝手連事務理事)	平本 通孝 (東京大学教授)	森 裕 (森ビル社長)
荒船 清彦 (国際経済研究所理事長元スベイン大使)	高原 俊民 (前兵庫県知事)	佐々 利雄 (帝京大学名誉教授)	堤 清一郎 (青少年健全育成協議会理事長)	広瀬 弥生 (国立大学情報学研究所)	森本 亮 (経済学博士)
アルベルト・ケンヤ・フジモリ (元ペルー大統領)	嵩 聰久 (長谷工コーポレーション会長)	更家由美子 (テューク更家夫人)	坪内ミキ子 (俳優)	廣田 勝男 (在日モンゴリア国名誉領事館名誉領事)	森 孝慈 (森ボーツ企画)
安藤 時彦 (財団法人民間都市開発推進機構常務理事)	角 廣志 (ふるさとテレビ館理事長)	更家 悠介 (サラヤ株式会社社長)	デヴィ・スカルフ夫人	深田 一夫 (インフィティビーエナジー社長)	森本 裕士 (佐藤工業会長)
安藤 陽彦 (アルファネット代表取締役)	掛川興太郎 (株) ツル社長)	殘間里江子 (情報・空間デザイン代表取締役)	寺島 実郎 (総合戦略研究所)	福井 秀夫 (政策研究大学院大学大学院教授)	守屋 昌男 (MIA テクノシステム代表取締役)
安藤 重孝 (日立造船取締役会長)	横 勝正 (日本文化振興会理事長)	三遊亭歌武蔵 (落語家)	寺田 典成 (秋田県知事)	福福 明 (明徳会会長)	森山周一郎 (俳優)
安藤 忠雄 (建築家)	葛西 敬之 (東海旅客鉄道会長)	椎名 武雄 (日本アイ・ビー・エム最高顧問)	堂本 暁子 (千葉県知事)	福川 伸次 (21世紀臨調・機械産業記念事業財団理事長)	森 和成 (アークシチュア (株))
アントニー・古賀 (歌手)	風間 健 (コンコルド 21 社長)	塩川正十郎 (日本再建のため行革を推進する700人委員会代表世話人・東洋大学総長)	トランジャン麻子 (ファッションデザイナー)	福地 茂雄 (アサヒビール会長)	諸井 けん (太平洋セメント相談役)
池口 忠親 (最福寺法主)	風間八左衛門 (ツムラ代表取締役会長)	瀬谷 義子 (熊本県知事)	渡嘉敷勝男 (渡嘉敷ボクシングジム代表)	藤原 義春 (養生堂名誉会長)	諸井 誠 (作曲家)
池田 ゆう (ゆうファッションスタジオ社長)	鍛冶 巧 野 (野球評論家)	漆原美代子 (都市環境美学・評論家)	戸川 昌子 (作家)	藤原 虎 (地方分権委員委員)	諸井 裕久 (元大蔵大臣)
池田 守男 (21世紀臨調資産室取締役会長)	横田 進 (テレビス象相談役)	品川 万里 (NTT データ副社長)	時田 宗明 (経済界専務取締役)	藤原 弘、 (俳優)	八木 哲郎 (知的生産の技術研究会会長)
池田 佳代 (NPO 法人フレンドシップ理事長)	片岡 郁美	篠沢 恭助 (国際協力銀行総裁)	トクター・中松 (発明家)	藤原 広幸 (作曲家)	薬師寺善藏 (慶応義塾大学教授・財団法人世界平和研究所研究主幹)
池田 佳隆 (社団法人日本青年会議所会頭)	片山 善博 (鳥取県知事)	篠田 英男 (漫画イラストレーター)	所 風弘 (草木染め作家)	藤原 寛之 (道路空間高度化機構理事長)	百合本安彦 (グローバル・フライン (株))
石井 威望 (東京大学名誉教授)	片山 正夫 (建築技術教育普及センター理事長)	篠田 伸二 (TBS マルチメディア・プロデューサー)	戸田香代子 (戸田商会代表取締役)	藤原 敏行 (KRG ランド代表取締役)	八城 政基 (株) 新生銀行社長)
石井 幹子 (照明デザイナー)	勝部 領樹 (勝部企画代表)	柴崎 博光 (ジャーナリスト)	富澤 秀徳 (テレビ大阪社長)	藤原 洋 (インターネット専務社長)	安住 祥策 (元大代表取締役)
石井 正弘 (岡山県知事)	加戸 守行 (愛媛県知事)	柴田 昌治 (経団連副会長)	富田 敏 (劇作家)	藤原 政男 (新日本グループ社長)	安田 生 (社団法人経済同友会常務理事)
石井 幸孝 (九州旅客鉄道 (株) 会長)	加藤 重義 (三井住友カード特別顧問)	嶋津 昭 (日本再建のため行革を推進する700人委員会・会市町村アカデミー学長)	豊田 章一郎 (トヨタ自動車 (株) 名誉会長)	藤原 浩明 (日本文化振興会総 (元) 皇族)	安田 浩 (東京大学国際学共同研究センター教授)
石井 宝山 (新日本美術協会会長)	加藤 春樹 (毎日新聞社編集委員)	島田 晴雄 (慶応義塾大学教授)	島野 博道 (株) ドールコーヒー会長)	二井 隆成 (山口県知事)	安田 隆次 (関東自動車工業社長)
石川 治 (一般財団法人シニアライフ支援機構専務理事)	加藤 昭 (ダム水源地環境技術センター理事長)	島田 陽子 (女優)	内藤 正久 (財団法人日本エネルギー経済研究所理事長)	仁科 治 (議会新聞社主筆)	安田 善夫 (ドン・キホーテ社長)
石川 嘉延 (静岡県知事)	賀内 正文 (株) 空取取締役)	清水 とき (清水学園理事長)	内藤 晴夫 (エーザイ (株) 社長)	細川 弘 (俳優)	安田 隆夫 (船井総合研究所会長)
石黒 大弘 (東海テレビ社長)	金井 宏 (金井重要工業 (株) 副社長)	清水 義晴 (えにし屋)	中尾 彬 (俳優)	船井 幸雄 (船井総合研究所会長)	安田 昌史 (株) 栄大代表取締役)
石塚 まさよ (作詞)	金子 慎 (東海旅客鉄道 (株) 取締役総務部長)	下地 常雄 (日本経営者同友会代表)	中川 福三 (加西市市長)	船井 順 (俳優)	舟橋 正輝 (フジパン社長)
石田 光義 (早稲田大学大学院教授)	神谷 一雄 (松久グループ代表)	下田 公一 (街づくり区画整理協会理事長)	中北 義和 (東洋大学教授)	船橋 晴雄 (シリウス・インスティテュート (株) 代表)	安原 正一 (株) サンシャインシティ会長)
石田 守 (NTT コミュニケーションズ)	神野 美由 (歌手)	下村 郁夫 (政策研究大学院大学大学院教授)	中島 義和 (日本セネラルモーターズ代表取締役)	船橋 徹 (作曲家)	柳川 真 (地域開発研究所理事長)
石田 芳弘 (21世紀臨調・大山市長)	神山正二郎 (映画監督)	下村 満子 (日本再建のため行革を推進する700人委員会・健康事業総合財団理事長)	中島 健一郎 (毎日新聞社常務取締役)	古川 康 (21世紀臨調佐賀県知事)	柳 真 (東京大学名誉教授)
石田 光義 (早稲田大学大学院教授)	神田 正徳 (映画監督)	朱 連華 (歌手)	中島 徳三 (ゼロボツ社長)	古川 のぼる (ふくろう博士)	柳川 博明 (東京大学名誉教授)
石原 信雄 (日本再建のため行革を推進する700人委員会・地方自治研究機構理事長)	神田 正徳 (映画監督)	白石 達郎 (GRS 理事)	中島 篤治 (日本地方新聞協会会長)	古田 英明 (編文アンソニエツ (株) 代表)	矢萩 春恵 (書家)
和泉 一 (ファーストグループ代表 & 軽井沢勝手連代表)	川勝 平太 (国際日本文化研究センター教授)	白倉 康夫 (敬天新聞社社長)	中條 高徳 (アサヒビール名誉顧問)	ベマ・キェルボ (剛橋横浜大学・大学院 (教授))	岡田 弘典 (日本経済団体連合会専務理事)
和泉 節子 (狂言和泉流宗家理事)	川原 進治 (アジア太平洋経済環境研究所代表)	白土 宏 ((財) 福岡緑産協会理事長)	進士五十八 (東京農業大学前学長)	北條希功子 (心霊学博士・女優)	矢橋 有彦 (日本電気計器検定所理事長)
出雲佐代子 (国際心霊学研究会財団理事長)	川島 正実 (地域活性化研究代表)	川津 永次 (東方青年連盟会長)	新藤 宗幸 (千葉大学教授)	星野 佳路 (株) 星野リゾート社長)	山本 敏弘 (日本女子ボクシング協会会長)
磯崎 新 (建築家)	川津 永次 (東方青年連盟会長)	新藤 宗幸 (千葉大学教授)	新内伸三郎 (人間国宝)	細川 勉良 (NPO リンカーン)	山口 令子 (ジャーナリスト 功労家)
磯村みどり (俳優草木染め)	河原 敏文 (オアシシャルター・プロデューサー)	新藤 宗幸 (千葉大学教授)	神野 保彦 (東京大学教授)	細川 寛之 (東日本旅客鉄道 (株) 理事長)	山口 良治 (伏見工業高等学校ラクリビー総監督)
市川 美三郎 (歌舞伎役者)	河川 敏郎 (ユーハイム取締役会長)	神野 保彦 (東京大学教授)	末松 安晴 (国立情報学研究所顧問)	堀田 威夫 (ホリプロ取締役・フアンダー)	山口 利仁 (医療法人八九十会グループ)
市村美就夫 (日本作家 小説家)	河村 有弘 (日経 BP 代表取締役会長)	末吉 興一 (北九州市長)	中村 梅玉 (歌舞伎俳優)	堀田 昌郎 (中部日本放送常任相談役)	山口 謙世 (山崎美生事務所)
出井 猛 (出井商事 (株) 会長)	神林 留雄 (NTT データシニアアドバイザー)	菅原 敏昭 (サンマイクロスシステムズ社長)	中村 邦夫 (松下電機産業会長)	堀田 力 (財団法人さわやか福祉社団理事長)	山下 茂 (明治大学教授)
井戸 敏三 (兵庫県知事)	菊池 久 (政治評論家)	菅原 明子 (菅原研究所代表)	中村 敦夫 (株式会社村中企画)	堀田 雅夫 (堀場製作所会長)	山下 靖典 (Y&Y 代表)
伊藤 喜美 (ハロー会長)	岸 輝雄 (東京大学先端科学技術センター元所長)	菅原 明子 (菅原研究所代表)	中村 邦夫 (株式会社村中企画)	本林 理郎 (日本 IBM 副会長)	山田 雅夫 (京都府画家デッサン画家)
伊藤 滋 (早稲田大学特命教授)	岸田 徹 (ネットラーニング社長)	杉岡 浩 (道路管理センター理事長)	長崎 和夫 (毎日新聞社顧問)	前田八重美 (前田環境美術協会会長)	山田 啓二 (東京都知事)
伊藤 鎮樹 (テニス顧問)	北川 正孝 (21世紀臨調共同代表・早稲田大学大学院教授)	鈴木志津夫 (マハリン総合研究所本部事務局代表)	夏崎 陽子 (俳優・ジュエリーデザイナー)	増田 寛也 (21世紀臨調・岩手県知事)	山田 健司 (プロテック会長)
伊藤 博行 (日本不動産研究所理事長)	北城格太郎 (日本 IBM 会長)	鈴木 俊一 (元東京都知事・市民協議会顧問)	並河 信乃 (行革国民会議事務局長)	増田 茂 (セロリンググループ代表取締役)	山田 謙三 (動物学博士)
伊藤 裕夫 (富山大学教授)	北山ひとみ (二期リゾート代表取締役)	鈴木 省三 (住友不動産常務取締役)	成毛 真 (株) インスパイア社長)	増田 房華 (NPO 法人白愛の友理事長)	山田 美絵 (ロングステイ財団)
伊藤 元重 (NIRA 理事長)	喜納 昌吉 (歌手)	鈴木 正誠 (NTT コミュニケーションズ社長)	南部 靖之 (株式会社パソナ社長)	松井 大典 (ファッションモデル)	山田 直樹 (オリンピック応援団長)
福業 武 (和幸社長)	木藤 将一 (35年会 FOUNDER・全国勝手連連合会・総本部顧問)	鈴木 忠雄 (メルシャン会長)	二階堂靖之 (一般社団法人日本福祉臨床協会・議会新聞社顧問)	松尾 通 (日本歯科東洋医学会会長)	山元 紀博 (錦旗造船ビル)
福本 正 (オークヴィレッジ代表)	木藤 将一 (35年会 FOUNDER・全国勝手連連合会・総本部顧問)	鈴木 道雄 (道路環境研究所理事長)	西尾 勝 (21世紀臨調共同代表東京市政協会理事長)	松尾 勇二 (NTT コムエア取締役・相談役)	山元 雅信 (山元学校校長)
福盛 和夫 (京セラ)	木村尚三郎 (東京大学名誉教授)	鈴木 道雄 (道路環境研究所理事長)	西垣 勝司 (日本電気)	松尾 和航 (日本青年社会長)	山谷 佐治 (元光代表取締役)
猿木 快方 (蘇れニッポン代表)	木村 政直 (相模協会行司)	鈴木 望 (21世紀臨調豊田市長)	西垣 昭 (元大蔵次官)	松尾 義博 (南有馬町長)	山谷 正則 (橋集工学研究所長)
今井 澄子 (環境デザイナー)	木村 茂 (木村証券社長)	鈴木 悠二 (クレディ・スイス・グループ日本会長)	西川りゅうじん (マーケティング・コンサルタント)	松岡 昇 (宮田川町相談役)	松岡 昇 (セントラル野球連盟会長)
入沢 栄一 (入沢大学教授)	木村 良樹 (和歌山県知事)	鈴木 啓之 (シロアムキリスト教会牧師)	西川 一誠 (福井県知事)	松岡 忠男 (日本文化振興会最高顧問)	橋山 勝也 (横峰寺福園総代)
入山 映 (立教大学教授)	木元 教子 (木元教子事務所)	角 廣志 (ふるさとテレビ副会長)	西銘 好子 (日本女子守備協会代表)	松岡 成文 (神奈川県知事)	橋山 弘 (ケイワイトレード (株) 代表)
岩井 友良 (岩井流・日本舞踊家元)	京谷 好孝 (リニアモーターカー創始者)	角野 真一 (アンチエイジング国際シンポジウム事務局局長)	西谷 剛 (横浜国立大学教授)	松岡 幸夫 (東京大学大学院教授)	橋山 弘美 (吉香社長)
岩田彰一郎 (アスクル (株) 社長)	行徳 哲男 (哲學家)	セイン・カミュ (タレント)	西村 幸夫 (東京大学大学院教授)	松岡 忠男 (日本文化振興会最高顧問)	橋山 成文 (神奈川県知事)
岩見 隆夫 (毎日新聞社顧問)	旭鷲山 昇 (日本相撲協会)	瀬戸 雄三 (アサヒビール相談役)	西村 晃二 (政策研究大学院大学大学院教授)	松岡 忠男 (日本文化振興会最高顧問)	松田麻太郎 (東京農業大学理事長)
上田 清司 (埼玉県知事)	金 笑 葵 (安田島 (株) 社長)	芹澤 ゆう (フォルマ社長)	根来 泰男 (プロ野球コミショナー)	松田 妙子 (住宅産業研修財団理事長)	松田 寛 (大和社長)
上野 龍彦 (花押通宗教)	金 比 夫 (拓殖大学客員教授)	荻村 清志 (ギタリスト)	三駒 匠 (自構理事理事)	松平 恒忠 (徳川宗家 18 代松平容保孫孫)	山田 美鈴 (ロンゲストイ財団)
上野 玄津 (真言宗千光寺代表役員・全国勝手連連合会・総本部副会長)	理柳 文憲 (リポーター)	外堀 公雄 (GRS 理事)	野崎 幸夫 (弁護士)	松谷 善一 (日本建築センター会長)	山田 直樹 (オリンピック応援団長)
上原 昶龍 (横橋寺総代理)	全 美華 (優天風社社長 & 女性の地位向上勝手連代表)	曾根 泰教 (21世紀臨調慶応義塾大学教授)	野崎 幸夫 (弁護士)	松谷 善一 (日本建築センター会長)	山元 紀博 (錦旗造船ビル)
水 龍樹 (クリエイティブプロモーション)	國本 善次 (21世紀臨調滋賀県知事)	國部 逸夫 (弁護士元最高裁判事)	野田 一夫 (多摩大学名誉教授)	松谷 明彦 (政策大学院大学院教授)	吉村 俊子 (YS グループ OB 会代表)
牛尾 治朗 (ウソ電機 (株) 会長)	稲崎 勝彦 (弁護士)	國部 好成 (ら・べるびい副社長)	野中ともよ (三洋電機)	松原 青美 (全国建設研修センター会長)	吉村 作治 (早稲田大学教授)
氏家齊一郎 (日本テレビ会長)	栗田 幸雄 (福井県前知事)	染野 行雄 (映画監督)	野中郁次郎 (一橋大学大学院教授)	松原 順子 (道 21 世紀新聞代表理事)	吉村 敏 (政策大学院大学学長)
内海 倫 (元人事院総裁)	栗山 尚一 (外務省顧問)	孫 正義 (ソフトバンク会長)	野村 貢三 (サムソン会長)	松本 正志 (映画監督)	芳村 忠風 (恩風庵哲学研究所所長)
内田 繁 (インテリアデザイナー)	グレン・S・フクナ (日本エアバス社長)	孫 昇次 (西濃情報サービス社長)	野村 朋夫 (公認会計士)	松本 康夫 (新赤坂クリニック名誉院長)	吉村 卓三 (動物学博士)
内田 健三 (新しい日本を作る国民会議会長代表)	黒川 紀章 (建築家)	高 巖 (麗澤大学企業倫理研究センター長)	野呂 晃児 (証券会社)	松本 朋子 (アスランハート代表)	米本 昌平 (三菱科学生命科学研究所)
梅田 博之 (麗澤大学企業倫理研究センター副センター長)	黒川 清 (日本学会学術会長)	高島 宏行 (沖繩 IT 宿泊予約センター・TS ファッション社長)	野呂 晃児 (三重県知事)	松本 秀作 (アライコ (株) 専務)	劉 勇 (オアシス・エッセイ創業者)
梅田 博之 (麗澤大学学長)	黒坂 将司 (昭和研究会専務理事)	高田 勇 (元長崎県知事)	萩尾 幸至 (日本文化振興会会長「動二等」元 福岡高裁判長)	松本 大 (マネック証券 (株) 社長)	呂 小麗 (中国大使館参事)
梅田 次郎 (株) 日本準産協会コンサルティング)	高橋 善義 (I&S コミュニケーションズ社長)	高橋 康夫 (テレビ・プロデューサー)	萩原 隆彦 (ヘルスケア協会理事長)	松本 文六 (医療法人財団天心堂理事長)	六波羅 昭 (建設業情報管理センター理事長)
江口 浩志 (作曲家)	高橋 康夫 (テレビ・プロデューサー)	高橋 秀典 (日本ヒューム社長)	箱島 信一 (朝日新聞相談役)	松本 義昭 (三和住宅建設 (株) 会長)	若尾 文子 (俳優)
江口 広彦 (PHP 総合研究所代表取締役社長)	合田 周平 (ヒューマンメディア財団理事長)	高橋 俊裕 (日本郵政カパ副総裁)	八島美夕紀 (三波クリエイティブ代表取締役)	丸山 和則 (日本テコンドー連盟)	若林 信二 (森ビル都市企画社長)
江藤 慎一 (プロ野球・評論家)	國場幸一郎 (国場組・SOFT21 最高顧問)	高橋 潤二郎 (森ビル・アカデミーヒルズ理事長)	橋本 元一 (日本放送協会会長)	丸山 和裕 (区画整理推進機構理事長)	浦井 洋治 (日本たばこ産業会長)
海老沢 敏 (音楽評論家)	國府 正男 (アジア地域戦没者慰霊協会理事長)	高橋 尚子 (マラソン選手)	橋本 元一 (高知県知事)	三枝 成彰 (作曲家)	和田 友良 (和田林業 (株) 社長)
江幡 哲也 (株) オールパウト社長)	五島 哲 (日本実業団陸上協議連合会長)	高橋 進 (公庫住宅融資保証協会理事長)	橋本 逸 (共同通信社社友)	三木たかし (作曲家)	和田 浩子 (OfficeWaDa コンサルタント)
遠藤 新司 (千葉県市民オプズマン連絡会議幹事)	五代利矢子 (評論家)	高橋 政行 (日本読海会理事長)	長谷川 凌二 (伊藤忠商事顧問)	三崎 匠 (自構研理事長)	渡辺 泰造 (元エジプト大使)
及川 淳 (全国農業協同組合連合会前会長)	後藤 寿彦 (元オリンピック日本代表野球チーム監督)	高橋はるみ (北海道知事)	島中誠二郎 (行政システム研究所理事長)	三崎 真 (不動産適正取引推進機構理事長)	和里田義雄 (経済調査会理事長)
大池 裕 (全国農業協同組合連合会前会長)	後藤 昭夫 (関市長)	高橋 宏 (首都大学東京理事長)	島山 襄 (日本再建のため行革を推進する700人委員会・国際経済交流財団理事長)	水谷 研治 (中京大学)	

※2006年の日本市民会議結成時にご紹介された方々 ※五十音順・敬称略 ※すべて当時の肩書きをそのままご使用させていただいておりますのであしからずご了承下さい。

※2006年の日本市民会議結成時にご紹介された方々 ※五十音順・敬称略 ※すべて当時の肩書きをそのままご使用させていただいておりますのであしからずご了承下さい。

全国勝手連連合会の海外活動

～日本から世界へ～
人道的支援を目的に!!
 国際・選挙監視・勝手連!!始動



各国が1つとなり、地球国への祈願を込めて・・・光永 勇会長



——ミャンマーへ訪問した全国勝手連連合会・光永勇会長（右）と顧問・池口恵観法主（左）

勝手連は、国内のみならず海外においても活動を行います。
 1999年には、ユーゴスラビア、エストニアの選挙が正しく行われることを監視するために「NGO国際選挙監視勝手連」を立ち上げ、両国に出発しました。



このことは日本経済新聞など大手新聞でも報道され、各界から勝手連にエールが送られました。
 2000年10月には、北朝鮮を訪問。「日朝・平和友好親善」の民間交流という形で行われ、北朝鮮側に「日本人拉致の存在」について初めて公式に問い質し、討議をしました。また、朝鮮赤十字社を訪問し義援金を贈呈するなど積極的な活動を行いました。



——韓国
 「大統領官邸での名誉会長・プレゼンター」福祉共同体・キリスト教会・警察官達が、殉職した人を表彰する会。名誉会長は現在も継続中。

このように勝手連は、問題があれば、助けが必要であれば、海外勝手連を結成して飛び立ちます。
 災害支援のために訪れたスリランカでは、大統領と会談を行った後、国際会議場において光永勇会長が「宗教戦争は止めよう」と講演で多くの宗教家に呼び掛けました。
 危険な紛争地帯にも出かけます。紛争の絶えないタイ・ミャンマー・ラオスの三角地帯では、軍のトップと会談し、平和のための協定を行うよう促しました。
 ロシアには、全国勝手連連合会会長・光永勇氏が、民間宇宙協会・副会長の立場で訪問し、平和的な宇宙活動の在り方について関係者と協議を行いました。
 勝手に応援する勝手連は、海外においても活躍しているのです。



北朝鮮へ訪問した光永 勇会長



日本の心は、「ヤマトナデシコ」の思いやりです。と友情の証をプレゼントする光永 勇会長



——ロシアより地球へ愛をこめて・・・



——ロシア
 「宇宙へ向けて」民間宇宙協会・副会長として、宇宙開発に向けての宇宙活動を行い、ロシアを励ましに行く。



——スリランカ
 「災害支援、大統領と官邸で対談」反対派、野党勢力の代表とも会談する。仏教の発祥地でもあり、国際会議場に於いて、多くの宗教家に、宗教戦争は止めようという講演し、後日この講話に対して、世界宗教者・賢人会より表彰を受ける。



——北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）
 「食糧支援、自然災害救助」貨車数十台とナベ・カマを持ち込み、現地で炊き出しをし、提供。



——ラオス
 「三角地帯（タイ・ミャンマー・ラオスの3国）、紛争調整」平和のための協定を前提に話合う。



——モンゴル
 「植林」空港から市内ウランバートルまでの沿道とさくら公園を作る。



—中華人民共和国
「人民大会堂」にて全国勝手連連合会、光永勇誕生会を開催（以後は一般個人の誕生日を中国でも盛大にお祝いする様になったと光永会長は語る。）下記写真は、小沢一郎氏と共に、約500名で「友好交流使節団」で、北京へ。



全国勝手連連合会・光永勇会長が誕生会を開催した人民大会堂（北京）にて10月1日の中国建国記念日のパーティに招待された沖縄県日中友好協会・国場幸一郎会長（国場組最高顧問・当時）と沖縄勝手連・上野玄津代表（当時）

これまでを振り返って

私、全国勝手連連合会会長光永勇は、海外と国内の違いの意識は余りありませんでした。地球を意識し、空から地上を見ると空と海ですべてが繋がっている地球サイズの想像力と特に発展途上国では、支配階級があり、情報開示と貧困が権利格差になっていました。しかし、情報を隔離操作することがいとも容易で行っているわけです。また、紛争や自然災害で難民になった人々は、物質的なものは失いましたが人間性を失ったわけではありませんでした。そんな様子を見て、人間はすばらしいとほっとする気持ちになりました。

沖縄には古来、ユイメールという考え方があり、助け合いの精神です。沖縄にはいまだ脈々と流れている精神は困っている人々、「災害にあった人々を助ける気持ち」です。物や金よりも、地域の一体感やユイメールの精神のほうが子ども心にも価値があったのだと思います。ですから、海外での活動では「一人に興味がありました。どんな生き方をするんだらうか？」と思い「たくましく生きてください」と思い「声を掛ける」ようにしていました。「勝手連は、あなたの応援団」この考えは、国内・海外の垣根を越えて地球人へメッセージされ、国境や国益に関係のない、人道的援助に特徴があります。貧困と生活が豊かでない状況ではみんなが助け合うという相互扶助の生活思想が、とても大事であり、今後さらに発展し広がることを願っています。



—ミャンマー
「大東和戦争（太平洋戦争）の戦没者のための世界最大級の慰霊の塔9基を建立」

アラブ諸国の平和に日本は何を成し得ているか。

アラブ諸国の平和に日本は何を成し得ているか。

元衆議院議員・元文部科学副大臣 松浪健四郎×光永勇

1946年大阪府生まれ。日本体育大学在学中に米国東ミシガン大学留学。1975年にはアフガニスタン国立カブール大学の教壇に立つ。現在は、日本アフガニスタン協会理事長、学校法人日本体育大学理事長。

アフガニスタンの自立に向けて

私がアフガニスタンと関わる事になったのは、国際交流基金から派遣されて国立カブール大学の教員となった事に起因する。

二十数年にわたる戦乱の結果、アメリカの空爆によりタリバン、アルカイダの勢力が衰え、民主的で平和な国を取り戻しつつあるものの、未だ権力争いや利権争いがあり、現在、米国をはじめ、外国の軍隊が駐留する事で治安を維持しているが、外国の軍隊が引き上げしてしまえば、治安維持も難しいと見られている。それだけに、アフガニスタン政府が一日も早く体制を整え、自らの国を自らで治める事ができるように努

前進しない中東問題が悲しい

アラブ諸国、アメリカのそれぞれが平和を願いつつも、考えをひとつにしてイスラエルとパレスチナに交渉する事ができない事が悲しい。日本はイランともアメリカとも良好な関係にあるが、両国の国交回復問題は進展せず、我々日本が色々な活動を行ってはいるものの、まだまだ活きたものになっていない事が、腹立たしいばかりだ。

（光永氏とのスペシャル対談より抜粋）

力していく必要がある。我が国は、ドナー国として外務省がボン合意に基づき、東京でアフガン復興支援閣僚級会議を主催し成功させたり、医療、教育、女性の地位向上、地雷の除去という四本柱で援助を行なっている。二年半で五億ドルを使っているが、これは誤りでなく、世界に誇れる素晴らしい援助だと思ふ。

私自身、外務省政務官として、時には国を代表してアフガニスタンの元国王やカルザイ大統領と会談した。

日本とアフガニスタンは友好的な関係にあるだけに、今後とも真剣に支援していく必要があると思ふ。



—イラク
戦争難民の救援支援「食糧支援、医療器具、教育」を持ち込む。



—イラク
バクダットで難民支援を行う



オランダ兵がサマワで後方支援する



タイ、ラオス、ミャンマーの三角地帯へ向かう光永会長

宮古大学の旗を立てて45年、

決意を新たに

祝・勝手連芸能協会発足!!

勝手連セレブレーション

●場所：原宿クロコダイル ●日時：2014年4月12日



音楽家が仲間呼びかけて、芸術家・アーティストが大集合！歌あり、踊りあり、カラオケありの「勝手連セレブレーション」には各界から多くの方が詰めかけて、大盛況のうちに幕を閉じました。

相互扶助の会・勝手連芸能協会の発足で、「一層の飛躍を目指します。」

アースデイから25年。勝手連が次に成すべきは「人気・天気・元気」。人気を獲得し「天の気」を変え、世の中全体を「元気」にしていく「人気稼業」を極める事なのです。

思想、宗教、国境、信条も党派も超える、勝手連の時代

光永勇会長がアースデイを初めて日本に持ち込んだ当時、環境問題をテーマとした運動は、せいぜい30〜50名集まれば成功だ、という時代でした。しかし「残されたテーマは、地球です」と謳った第1回の沖縄大会には1万人が集まり、今や200万人規模の大運動体となっています。世界中で5億もの人々が思想・宗教・国境・信条を乗り越え、活動は勢いを増しています。

今年2月の東京都知事選挙では、各政党は候補者を公認せず、各人が勝手連を名乗るといふ現象が起きました。無党派層が主流の時代となり、いよいよノンセクト・ノンイデオロギーを貫いてきた勝手連の理念が社会に浸透してきたのです。

思想家・政治家・宗教家と共に歩み、成長を果した勝手連ですが、次にすべきはスバリ、「人気稼業」。「人気」が「天の気」を変え、世の中を「元気」にして行く、即ち「天下取り」なのです。

嵐を起こす組織作り

これまでの勝手連は組織を作らず、風のような、波のような運動体でした。しかし51年目からはもっと強烈に、竜巻や嵐を起こす組織作りをしています。政財界、スポーツ界、芸能界を問わず、現代は、お金も権力も、上から下に流れる社会です。この問題に真っ向から働きかけ、重要なメッセージを発信できるのは、単なる娯楽ではなく庶民の代表として「感動」と「想い」を伝えられる、魂の宿る芸術家なのです。エンターテインメントの世界では、まだまだ微力ですが、我々は芸術家の活躍の場を創造し、共に成長を遂げたいと願っています。有名・無名に関わらず、世界中に発信できる時代。今はまだ小さな組織でも、始めれば何かが変わる!! つながれば、パワーなのです!!



子どもエイサーって素晴らしい!! ワールドチルドレンフェスタ、 豊見城「子どもエイサー」の歴史



2013年7月に沖縄県豊見城市で、第25回・全沖縄子どもエイサーまつりが行われました。実は、この豊見城の子どもエイサーを24年前に東京・代々木公園に派遣した事を思い出しました。ソ連のゴルバチョフ大統領の来日を記念し、「ワールド・チルドレン・フェスティバル」が開催され、世界の子ども達に「沖縄の芸能」を紹介しました。理事長が長嶋茂雄氏で、沖縄県知事に要請文を出し、一緒に子ども育成資金を準備し、沖縄子どもエイサー代表团、本村子ども会(宜保喜久会長)が結成されました。市長が那覇空港から激励して送り出したメンバー40人を、私は東京で迎えました。一行は、各国のトップを切って、オープニングで登場。国際親善の大役を見事果たしました。同フェスティバルには、貴花田兄弟がいて、まだ相撲をしてなかったのですが、弟の夢は、「兄を追い越すことです」と言っていたのが印象に残っています。他には、アメリカからブルックシールズや、サッカーのペレなど、有名人が多数参加。世界22カ国の子ども達が民族舞踊などのパフォーマンスを繰り広げました。私はその翌年に、嘉手納基地で、平和の祭りを、アメリカのレーガン大統領と、ソ連のゴルバチョフ大統領をお招きして、という予定でしたが、ソ連が崩壊し、夢は実現できませんでした。ともあれ、子どもエイサーの発祥がこの豊見城から、そして今、全沖縄の「子どもエイサー」まつりに成長・発展していることは、頼もしく、また、とても嬉しく思っています。当時の関係者の努力が実を結んだと思えて、感無量です。今後も発展することを祈念します。

光永勇



光永会長は、なべおさみさんと会食をし、今後の勝手連芸能協会についても話していました。

沖縄の歌姫・ナシルさん

「川は流れる」の中曾根美樹さん

沖縄稲嶺県知事(当時)とIZAMUさん

「千の風になつての」秋川雅史さん

県知事選を当選に導いた河島英五さん



きっと見つかる水着!! **メンズ入荷**

50%OFF



リゾートワンピース&セットアップ **2F** 国際通り本店



日本最大級の品揃え
オシャレ水着ブティック

**ガールズ
テラス**

那覇市牧志3丁目1番2号
国際通り本店 2F
☎098-861-6668

(担当) 営業 AM 11時~PM 11時
高島

ガールズテラス国際通り本店ブティックでは、フランス等の欧州から仕入れた商品とSIORIデザイナーJapanブランドの「パニラローズ」(製生産)が大評判です。
ガールズテラス取扱いのコピー商品にはご注意ください。

www.girls-terrace.com

ガールズテラス 検索



右記は1950年に
制定された
沖縄旗です。



TS fashion co.,ltd.
shopmaster@girls-terrace.com

facebook
facebook.com/www.girls-terrace.com

girls-terrace 検索
twitter
@girls_terrace 検索



■ミュージシャン・元 参議院議員

喜納 昌吉

1948年沖縄県生まれ。国際大学(現沖縄国際大学)を1967年に中退。1976年に喜納昌吉&チャンブルーズを結成し、「花」が大ヒットする。NGO「すべての武器を楽器に ピースメーカーズネットワーク」創設。

腐敗に寄生する
政治を行なわせない
勝手連へ

われわれにとつての政治とは何かというと、そこにある腐敗という敵と闘う事である。勝手連の役割は、この腐敗に寄生しているものを駆除する政治を行なわせる事であると思つている。なぜなら、勝手連は

どの党とも組織とも関係ない。タンスを保つて腐敗を回避しているからだ。そこに私は魅力を感じている。今、必要とされているのは、レポリーションではなくトランスフォーメーション。私も、もちろんコンピューターを駆使した人類牧場と化した宇宙に届ける事ができる「愛のゆらぎ」の世界の人々に元気を取り戻させたいと思つている。

日本復活の渦を巻き起こし、人類和合の強力な部隊として活躍せよ。

ン、つまり、世の中がおかしいから変えよう、日本を蘇らせようという活動である。そして、日本は東洋のスピリチュアリズムと西洋のマテリアリズムをどこよりも美しく進化させている。だから、例えば北朝鮮と韓国を統一する働きかけを積極的に行なうなど、人類を和合させる事に力を注ぎ、和合経済、和合政治、和合文化を作つていけばよいと思つ。

■俳優

藤岡 弘

1946年愛媛県生まれ。USA映画俳優協会会員。刀道七段、抜刀道四段、柔道三段、空手初段など武道家としても知られる。現在、民間ボランティア団体「グローバルレインボーシップ」理事を務める。



日本は世界に向けて志を発信してきたのか?

私は俳優として、またボランティア活動家として、世界各地を回り、さまざまな民族との交流を通して多くの事を学ばせていただいた。その体験に立って日本を外から眺めてみると、何と国際感覚にスレがあるのだろうと思わずにいられない。ボランティア活動を通して私が疑問に思うのは、日本は世界トップの経済援助国として実績を積んで来たにも関わらず、その貢献が、なぜ世界から認められないのかという点だ。その責任は、外交だけでなくメディアにもあると思う。メディアを通じての情報発信が、世界に立ち遅れているのだ。もしも私が何らかの援助金をODAを通じて出す立場にあつたならば、日本国民の総意とメッセージを相手国にきちんと伝え、その国の国民にメディアを通じて知らせたいと主張するだろう。

同時に、その事を日本のメディアでも報道し、国民に伝えれば、両方の国民が感謝の気持ちと喜びを分かち合えるだろう。そう、私は現在、こうした自分の思いを若い人たちにも伝えたいという気持ちから、講演活動を行っている。大学をはじめ全国の自治体や青年会議所など、どこへでも出かけて行って自分の体験した事をしゃべらせていただく。それが若者たちに思わぬ反響を呼び、インターネット上でも口コミ的に広がっている状況だ。私の公式サイトにも毎日多くのアクセスがあつて、自分でも驚いている。結局、今の若い人たちは、何かを求めて渴しているのだと思う。だから、心の琴線に触れるような何かに出会えば、生き生きと蘇る。私は講演活動でもその手応えを感じ、少しは日本の将来のためになるのではないかと、本気で取り組んでいるところだ。私自身、勝手連を通じて素晴らしい出会いの機会を与えられた事に感謝している。出会いが人生を変えると云われるように、視野も広がり、多くの人たちと価値観を共有する事もできた。どうか、これからも国境や宗教やイデオロギーを超えた地球人として、新しい波を作り続けて欲しい。そして、子供や若者や日本を愛している大人たちに、夢と希望を与える集団として活動していただきたい。私も同じ思いで、自分らしいメッセージを発信していこうと思つ。

未来に希望をもたらすために

でなければ、経済援助の意味がないと思うのだ。

日本人の原点に立ち戻り、世界に貢献できる国へ。